

夜間討論会「市民参加及び協働を超える新しいまちづくりとは！」

日 時 平成26年9月24日（水）18：30～20：30

アドバイザー 東京大学公共政策大外学院 客員教授 奥村裕一氏

第1回の概要

テーマ1

- ・ 日ごろの業務について、データ（情報）公開がどのくらいできているか振り返る。
- ・ 職員が仕事を進める上で、データ（情報）公開が当たり前のことになるにはどうすればよいか。

【方向性】

- ・ 二次利用可能な形で公開するオープンデータ（以下「オープンデータ」という。）と、市が有している情報をわかりやすく伝える情報提供（以下「情報提供」という。）の二本立てで進める。
- ・ オープンデータの活用により、民間による新たな価値の創造を期待。
- ・ 情報提供は、個人情報など情報公開条例で不開示とされている情報を除き、原則として公開していく。
- ・ 個々の職員の意識の転換とともに、市としてデータ（情報）公開の原則を明確に示し、組織的な対応を図る。
- ・ 情報提供を参加、協働につなげていく。

【課題】

- ・ 意思形成過程の情報の公開をいかに進められるか。参加、協働へつなげていく視点も必要。
- ・ 情報を出すことによる負のインパクトの連想をいかに乗り越えるか。
- ・ 職員の意識をいかに変えていけるか。
- ・ 情報を出すことをいかに本来業務化できるか。
- ・ 情報を見やすく出していく工夫が必要。

テーマ2

- ・ 日ごろの業務について、市民参加がどのくらいできているかを振り返る。
- ・ 職員が仕事を進める上で、市民参加が当たり前のことになるにはどうすればよいか。

【方向性】

- ・ 参加を進める目的は、市民が抱える本当の課題を把握し、それを施策に反映していくこと。
- ・ 参加は、現場の小さな業務から総合的な計画作りまで市役所の仕事の様々な場面で求められる。
- ・ ICTと実社会の対話のハイブリッドで市民の意見を吸い上げていく。
- ・ 参加を進めることで、行政がやり方を変えるだけでなく、市民も公共への関与の仕方

を変えていくきっかけにしていく。

【課題】

- ・ 政策形成過程への参加をいかに進められるか。
- ・ 参加の質を高めるためには、課題の共有が必要。
- ・ 少数派の意見をいかに吸い上げるか。
- ・ いかに幅広く意見を求めていくか。ICTの活用や実社会の対話など多様な参加方法を用意することが必要。
- ・ 区役所の職員など普段から市民と接し市民の声を聞く機会のある部署もあり、それを上手く活用できないか。
- ・ 職員の意識を変えていくには、成功例を作り見せていくのも一つ。
- ・ 市民が参加してよかったと思えるような参加への見返りを検討していく必要がある。

テーマ3

- ・ 日ごろの業務について、協働がどのくらいできているかを振り返る。
- ・ 職員が仕事を進める上で、協働が当たり前のことになるにはどうすればよいか。

【方向性】

- ・ 現条例の定義では、市民と市が共通の目的を達成するため協力、補完することとされている。
- ・ 企業との協働も進む中、協働の枠組みは変化しつつあり、必ずしも目的意識が一致していないなど現条例の定義には合わないケースもある。現条例の定義よりも、緩やかな連携・協働があってもよい。
- ・ 市役所の強み、弱みを振り返り、その上で、公共サービスの提供の仕方を見直していく。
- ・ 市役所だけではうまくいかない課題に対し、民間と連携・協働し、市民にとって質の高い公共サービスを提供していく。
- ・ 協働を進めるには、既存の枠にとらわれずに、柔軟に発想することが必要。
- ・ ちばレポのようにICTを上手く活用していけるとよい。

【課題】

- ・ 協働の相手方に関する情報を出していく必要がある。
- ・ 協働の担い手の掘り起しをいかにしていくか。
- ・ 補助事業については、補助終了後いかに事業を継続させられるか。
- ・ 事業実施において事故が起きたときの補償の在り方を検討する必要がある。
- ・ 1対1の関係ではなく、第三者的な外部の人を入れたり、三者間の関係を作っていくのもよい。
- ・ 企業との連携・協働を進めるには、企業側のメリットを打ち出していく必要がある。
- ・ 目的意識の共有化に時間をかけることが大事。